



あびこ市民活動 ネットワーク 会報

令和4(2022)年4月15日発行

第61号

発行責任者 宇野真理子

我孫子市湖北台 4-11-16



新年度の始まりに向けて



あびこ市民活動ネットワーク

代表 宇野 真理子



昨年も3月21日に緊急事態宣言が解除され、解除後も感染者は増え続けていました。

今年も全く同じ状況になっています。そして今もなお感染後の後遺症に悩みながら生活を送っている人々のことを思うと予断を許さない状況に変わりはないと思います。

上海ではロックダウンが続いており、人々は不自由な生活を強いられ、一方、ロシアによるウクライナ侵攻で多くの町や自然が破壊され、市民の犠牲者は増え続けており、人々の心に深い傷を負わせています。

こんな時代になると誰も想像できなかったのではないのでしょうか？ いつ何が起こるか分からない時代を私達は生きていると思います。だからこそ今まで以上に家族や友人そして地域でのつながりを大切に深めていく必要性を痛感するこの頃です。

この4月から我孫子市役所も市民との協働をさらに進めるために市民活動支援課から市民協働推進課に名称を変えます。そして庁内の情報把握・発信・調整の役割を担い、今まで以上に協働しやすい環境整備

に取り組んでいくことになりました。関係ある課との連携強化が期待されます。

あびこ市民活動ネットワークは昨年度から①我孫子市市民公益活動支援指針を実りあるものにするための検討グループ②地域共生社会づくりを推進するための事業グループ③子ども応援団事業グループの3つの柱を掲げて事業を展開して来ました。今年度も3つの柱を中心に活動していきます。しかし、今までよりも会員の皆様の声や参画の必要性を感じていますので、そのために会則をはじめ事務局の機能を役員会で見直しました。さらに今年度は役員改選年に当たります。今まで長い間幹事としてかかわっていただいた渥美さん、石黒さん、奥山さん、多田さん、中村さん、原田さん6名の方が退任されます。今まで多大なご協力をいただきありが

とうございました。現在新体制を固めているところです。会則改正・役員体制については、総会時に議案として提案させていただきます。

総会終了後会員交流会を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

今年度もお恵とお力をお貸してください。

定時総会のご案内		
開催日	5月31日	火曜日
時間	午後2時～	
場所	けやきプラザ 7階 研修室	



「市民とともにつくる協働によるまちづくりの推進」

市民生活部長

海老原 郁夫

市民生活部長に着任しました海老原です。あびこ市民活動ネットワークの皆様には、あびこ市民活動ステーションとの事業を始め、市民活動団体や市との連携調整等、様々な活動により活力のあるまちづくりにご協力をいただいております。深く感謝申し上げます。

さて我孫子市では、基本構想の期間を20年とする第三次総合計画が令和3年度で終了し、新たに令和4年度から令和15年度までの12年間を基本構想の期間とする「第四次総合計画」がスタートし、「施策推進のための横断的な取り組み」として、「市民ととも

につくる協働によるまちづくりの推進」を掲げました。

また市民活動支援課は市民協働推進課へと課名を改め、これまでの市民活動支援の他に、様々な主体の相談窓口としてコーディネーター役を担うことで、皆様と魅力あるまちづくりに取り組み市民の自主的な公益活動を推進して参ります。そのためにも、今後もあびこ市民活動ネットワークの皆様と協働で市民の活動を支えて行かなければならないと考えています。

微力ながらもその役割を果たしてまいり所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

< も く じ >

- 1P あびこ市民活動ネットワーク代表挨拶／市民生活部長挨拶
- 2P 市民活動に関連する組織変更・人事異動の紹介／市民のチカラまつり／市民のチカラまつり2022企画部門参加者募集
- 3P 事業計画に基づいた活動：①グループ ②グループ
- 4P 事業計画に基づいた活動：③グループ

- 5P 会員の活動あれこれ：NPO 法人 ACOBA／レイチェル・カーソンあびこ
- 6P 地域の活動あれこれ：ものがたり文化の会／総合計画審議会報告
- 7P ACNW 役員会報告／事務局から
- 8P みんなの掲示版：定時総会案内／SKS から

【市民活動に関連ある組織変更・人事異動の紹介】

■退職

市民生活部長・隈正章

■異動

市民活動支援課倉島千誉子（課長補佐）⇒子ども部保育課

■4月1日より着任

環境経済部手賀沼課参事・海老原郁夫⇒市民生活部長

■引き続き業務を担当

市民活動支援課においては市民協働推進課に課名が変更

小池博幸（課長）、

市民活動推進係・飯塚寛明（課長補佐兼係長）、

山田孝介（主査）、菊地のぞみ（新規採用）、

長谷川直美（会計年度）、伊藤瑞恵（会計年度）、

地域振興係・渡邊さやか（係長）、中島弘貴（主任）、

齋藤千遥（主任主事）、榎本陸人（主任主事）、

打田佳咲（会計年度）が業務を担当

【関係各課の異動を一部掲載します】

4月に着任（管理職のみ掲載）

高齢者支援課・課長補佐：落合知視

課長補佐（兼）係長：三井美穂

子ども支援課・課長：荒井康哲

次長（兼）子ども支援課長：山田和夫

社会福祉課・課長補佐：三浦史生

主幹：小笠原雅夫

市民のチカラまつり 2022 開催内容と日程

（あびこ市民活動ステーション）

市民活動団体が中心となって行う一大イベント「市民のチカラまつり」は、今年度は以下のような内容と日程で行います。「多世代交流のまちづくり」の実現に向けて、様々な形で市民活動団体のチカラを発揮します。

1. 活動展示・紹介 9月14日（水）～9月25日（日）けやきプラザ、アピスタ
2. 参加体験型イベント部門、販売部門 9月24日（土）けやきプラザ
3. 企画部門（講演会・シンポジウムなど）
4. 出張市民のチカラまつり@布佐 日程 未定 ふさの風近隣センター等

1と2は、市民活動ステーションで募集・受け付けます（4/15～5/15）。）

詳細はHPをご覧ください。<https://abikosks.org/>

3は、あびこ市民活動ネットワークが企画・運営し、参加団体を募集します。



「市民のチカラまつり2022企画部門」参加者募集

コロナ禍3度目の春を迎えました。まん延防止措置が解除されたとはいえまだまだ感染者が高止まりする中、今年も感染防止対策を万全に講じ市民のチカラまつり（以下まつり）が開催されます。

今年のまつりは市民活動（団体）に触れて楽しんでいただく「参加体験型イベント部門」と市民活動を学び、考え、語り合う「企画部門」に分けて実施することになりました。

「企画部門」についてはあびこ市民活動ネットワーク（以下ネットワーク）がその企画・運営を担うことになり、ネットワーク内で企画部門担当として宇野・関口・柳川・中條の4人が担います。

開催日は今のところ9月が予定されており具現化に向けて協議を開始しました。当面の対応として広報あびこ5月1日号に「市民のチカラまつり2022企画部門」のタイトルで参加募集を掲載することにしました。担当としては幾つかの項目立てを考えています。初めての試みなので、様々なご意見が出てくると思いますが、関係団体の協力を得て実りある、より良いイベントにしたいと考えております。

（担当幹事 中條信三）

事業報告

①グループ 市民活動支援指針を実りあるものにするための検討

我孫子市市民公益活動支援指針は昨年 5 年ぶりに改訂され

指針に基づく事業案について

担当課とあびこ市民活動ネットワーク幹事で数回にわたり意見交換会を行いました。

今年度最後になる 2 月 7 日には、市役所分館会議室で 4 月の広報で募集する地域コーディネーター養成事業について話し合いをしました。その中で名称の確定・報酬の問題・ファシリテーター力の重要性・地域全体を把握する必要から地区別の会議等にはできる限り参加してもらうこと・市民との協働事業をするときには今までよりしっかり市の職員が庁内の調整を図ることなど確認をしました。

4 月 1 日の広報に募集記事が掲載されています。担当課によると 4 月 8 日現在 10 名くらいの応募があるそうです。先着 30 名ですが、地域に熱い思いを持たれている方々が増えて行くことが市民活動や地域の活性化につながります。あびこ市民活動ネットワークとしても大いに期待しています。（担当幹事 宇野真理子）

②グループ 地域共生社会づくりを推進するための事業

【ICT や IoT を活用した高齢者の日常生活支援を検討する】

今年度、あびこ市民活動ネットワークでは ICT や IoT を活用した高齢者の日常生活支援について検討していきます。

高齢者の「介護・予防・生活支援」について地域包括ケアシステムの構築が推進されていますが、高齢者の一人暮らし世帯が増加している中で、子どもや孫世代の介護負担が増加傾向にあります。



アマゾンアレクサ

親や祖父母が一人暮らしで心配だけれども、なかなか会いに行く時間を作れず、元気に過ごせているかの不安を解消したいというニーズ。また、一人暮らしの高齢者が身体機能の低下から感じる困りなど、一人暮らしの高齢者を取り巻く生活課題は多種多様です。他の人に頼めない小さな日常の困り感の積み重ねは、一人暮らしの高齢者の孤立感を生み出し、生活の質（QOL）の低下やうつ症状にも繋がります。昨今では新型コロナウイルス感染症の影響から、高齢者が孤立を感じることはさらに増えています。

そんな中で、高齢者の日常生活で ICT や IoT を活用する有効性が注目されています。音声応答システムのアマゾン アレクサを用いれば、スマートフォンの操作ができない方でも「アレクサ ○○に連絡して」とアレクサに話しかければ連絡が取れます。IoT 対応の家電にすることで「アレクサ 部屋の電気を消して」と言えば部屋の電気を消すことができ、一人暮らしの高齢者が抱える不安の解消や、家族の介護負担の解消にもつながります。

実際に有効活用をするためには様々な課題がありますが、我孫子市と意見を交換しながら、ICT や IoT を活用した高齢者の日常生活支援について検討していきます。（担当幹事 関口隆彦）

※ICT 「Information and Communication Technology」の略称で、日本語では「情報通信技術」

※IoT 「Internet of Things（モノのインターネット）」とはモノがインターネット経由で通信すること

③グループ 子ども 応援 団 事業

生きづらさからの大脱出 Part5 ～大人たち みんなで 変わっていこう～



2022年3月12日(土)に、生きづらさからの大脱出 Part5 を開催しました。このシリーズでは、生きづらさを抱えた子ども達の支援を目的に、当事者の発信と、当事者を支える活動や機関のつながりづくりを中心に据えて、講演やシンポジウムを行なってきました。5回目になる今回は、「不登校や発達障害のお子さんを持つ親(当事者)が学校や地域と共に子どもを支援できるようになるためのヒント」「子どもや親を支援する支援者の相互のつながり」をテーマにしました。

流山市で発達障害を持つ方と家族、関係者の支援及び関係機関の連携づくりを行なってきたNPO法人CASE Japan 代表吉田明子さんを迎え、第1部は吉田先生の講演、第2部はパネルディスカッション、第3部は参加者が相互に自由にお話ができるつながりタイムを設けました。

当日は、コロナ感染蔓延防止措置の最中になり、けやきプラザ9階 我孫子南近隣センター多目的ホール

に12台のパソコンを持ち込み、講演からつながりタイムまでオンライン開催となりました。当日の参加者は77名。(内53名はZoom参加者で、ご夫婦や親子で参加されていた方もいた。)実行委員会には行政や市民団体、学校関係者、当事者グループなどが参加し、準備段階の実行委員会の会議自体が研修の場のような学びがありました。当日も実行委員がご自分の団体の紹介をしたり、つながりタイムに参加し、一般参加者と共に約3時間近く同じ課題を共有して学び合いました。

参加者アンケートでは全員が満足したという回答で、具体的には ①参加して気持ちが楽になり、元気が出た 31% ②相談できそうな人や団体に出会えた 31% ③学校とつながろうという気持ちが高まった 27% ④様々な支援について知ることができた 75% ⑤地域でのつながりの必要性について理解が深まった 48% ⑥地域で自分のできそうなことが明確になった 31%という結果になりました。詳しい内容は市民活動ステーションのHPで報告します。

(担当幹事 栗原祐子)



- 内容： 第1部 基調講演 「親からつながるための最初の一步」 吉田明子さん
第2部 パネルディスカッション コーディネーター 遠藤美香さん (我孫子市教育相談センター長)
パネリスト 吉田明子さん (NPO法人CASE Japan 代表)
山本知子さん (スクールソーシャルワーカー)

第3部 つながりタイム (小グループに分れてオンライン上で、お話し合い)

主催：子ども応援団事業実行委員会・あびこ市民活動ステーション・あびこ市民活動ネットワーク

会員の活動あれこれ

休眠預金活用事業 活動報告

NPO 法人 ACOBA 代表理事 木川敏子

2020 年度緊急支援助成の「資金分配団体」として私ども ACOBA は外部の審査員会を経た理事会で5つの「実行団体」を選定し、1 年間伴走支援してきました。試行錯誤を重ねながらも、各実行団体は採択時に計画していた以上の成果をあげて事業は無事終了しました。

2 月 23 日には各団体の成果報告会をオンラインにて開催し、参加された審査員からも高い評価を頂くことができました。団体名と事業概要ですが、報告させていただきます。

★特定非営利活動法人 キャリアデザイン研究所（柏市）

障害が疑われる方（障害者含む）の就労支援に取り組み、相談窓口開設、トレーニング、企業ジョブコーチ支援を行いました。

★特定非営利活動法人 スマイルクラブ（柏市）

障害児スポーツの動画作成、オンライン型部活動支援等を行いました。

★特定非営利活動法人 ゆこびと（鎌ヶ谷市）

鎌ヶ谷市に子ども食堂がないので講座を開き、4 か所の子ども食堂立ち上げ実現に向かっていきます。

★手賀沼まんだら（我孫子市）

高野山の農地を借り、子ども主体の外遊びを中心とした地縁コミュニティ「ごちゃにわ」ができました。

★株式会社新閃力（流山市）

子どもや若者が「生きる力」を学べるオフィスを子どもたちが中心になって作りました。



審査員の一人として応援いただいたあびこ市民活動ネットワークの宇野眞理子代表からは、活動を次の世代へ繋いでいく期待と今後の社会の仕組みづくりを託したいとの、エールと課題の提供を頂きました。

ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



「レイチェル・カーソンあびこ」から この時代への 少しのおはなし



レイチェル・カーソンあびこ 代表 島藤紘子

— 長いあいだ旅してきた道は、すばらしい高速道路で、すごいスピードに酔うこともできるが、私たちは騙されているのだ。その行きつく先は禍であり、その行きつく先は破壊だ。もう一つの道は、あまり「人も行かない」が、この分かれ道を行く時こそ私たちの住んでいるこの地域の安全を守る、最後の唯一のチャンスがあるといえよう。

『沈黙の春』第 17 章 別の道から抜粋 —

レイチェル・カーソンあびこを立ち上げて 20 年以上が過ぎました。年会費も会則もありません。あるのは自然が好きで自然を大事にしている方が会員の条件でしょうか？私自身は『沈黙の春』の最終章が好きで、活動の原点です。



『沈黙の春』が出版されて 60 年になる今年、カーソンが生きていたら化学が地球の生物に大きな影響を与え続け何年たっても地球の在り方に忸怩たる思いでいるのでしょうか。何がこうしてウイルスなどが人間を翻弄させているのでしょうか？カーソンが生きていたら今の世界をどう思うでしょう。

『沈黙の春』の出版の後レイチェル・カーソンは『センス・オブ・ワンダー』という子育てをしている親たちへのメッセージとして書き残した文章を、後に友人たちが出版しました。大人になっても不思議だと思

えるところが持てるでしょうか。この『センス・オブ・ワンダー』に共感して、日本語に訳して出版したのが日本協会の会長として、92 歳の今も発信し続けておられるのが上遠恵子氏です。

レイチェル・カーソンの遺志を受け継ぎ、昨年は日本協会の何人かが中心になって『13 歳からのレイチェル・カーソン』（上遠恵子監修）を発行しました。人間も生物の一部であり、あらゆる自然を大切にすることを育ててほしいと。

レイチェル・カーソンあびこは、レイチェル・カーソン関東フォーラムとつながり年 4 回の会報の担当や年数回の観察会の担当をしています。観察会などは非会員でも参加自由です。現在正式会員は 5 名ですが行事に応じて応援してくださる方がいます。

地域の活動あれこれ



「風とゆききし 雲からエネルギーをとれ」宮沢賢治



ものがたり文化の会 根本千絵

ものがたり文化の会は、宮沢賢治の童話をこどもたちが楽しみながら読み、表現するという超マイナーながら一応全国ネットの活動です。

宮沢賢治童話には、さまざまな生き物が出てくるので、なるべく本物を見たり体験したりしながら、自然の不思議を発見しています。『オツベルと象』というお話の時は、オツベル農園の百姓のように手賀沼トラストさんで田植えを体験、足踏み式稲こき器械で稲こきもさせてもらいました。



賢治童話を原文そのまま、声とからだだけで表現する人体交響劇は、幼児から小学生、中学生、高校生、大学生、お母さんまでが一緒になって半年以上かけてすべての動きを相談して作ります。みんなが演出家で表現者です。人間だけではなく、どんぐりやなめくじやクモや風や星になって動くことは、視点が変わって自分を解放してくれるようです。ちびっこたちも舞台の上で、のびやかな声としなやかな動きで堂々と発表します。



我孫子グループも、今年で30年目。初代メンバーのうち7人はママパパになり、親子2代で遠くから通って来る親子もいます。

去年は利根川の土手下に150坪の畑を借りて、イモを植えたり、穴を掘り竹を切って日よけ小屋を建てたり、コロナであまり集まれない中、かっこの遊び場になりました。今はこどもが野良で勝手に遊んで、自然の中で色々経験を積んでいくことが難しい時代ですが、宮沢賢治が農民たちに呼びかけた下の言葉をいつも思いながら、時には大きく深呼吸できる場でありたいと願っています。

「風とゆききし 雲からエネルギーをとれ」宮沢賢治 農民芸術概論



「我孫子市総合計画審議会」に参加して

我孫子市総合計画審議会委員 小田麻子

「我孫子市総合計画審議会」の委員として、令和元年6月から令和3年12月の期間、会議に参加しました。この審議会是我孫子市第四次総合計画の基本構想と、令和4年度から6年間の前期基本計画の内容を審議するもので、第四次総合計画は基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成されています。

我孫子の将来都市像は「未来につなぐ 心やすらぐ水辺のまち 我・孫・子」と決まり、この都市像を実現するために8つの基本目標を定めました。

途中、コロナ禍で会議が延期になり、Zoom開催になるなどの状況はありましたが、各分野から参加された25名の委員の意見はとても活発で、さらに2つの分科会に分かれて細かく討論出来たのも良かったと感じました。SDGsの勉強会なども行われ、我孫子市の未来像、これからの課題などを知る機会にもなりました。

市民活動については「施策推進のための横断的な取り組み」の中に記載があります。市民活動の現状と課題は、会議の際に述べさせていただきました。基本構想・前期基本計画の内容は、我孫子市のHPからご覧いただけます。

■ 1月度役員会 1月13日(木) Zoom会議の併用

報告事項

1、会報の発行について

1月15日発行会報60号についての進捗状況及び発行部数、配布箇所について報告された。

2、会費の納入状況の報告があった。

検討事項

1、来年度の体制をどう考えるのか検討した。

①会則を改正する。

市民活動支援課の名称変更に伴い、会則改正が必要になる。実情と合致していない箇所も一緒に見直しをしておいた方が良い。

②役員体制を活動できる体制にする。

事務局機能を充実させる。

今年の総会は役員改選の年になる。

役員会も効率的に開催できる手法を探る。

③市民協働推進課と今後について話し合うため調整をする。

■ 2月度役員会 2月10日(木) Zoom会議の併用

1、7日の懇談会の報告があった。

検討事項

1、令和4年度市民のチカラまつりについて市民活動ステーションから協力依頼の内容を検討した。

①企画部門をネットワークで担わないと、団体の管理や内容管理がステーションだけでは難しい現状がある。

②金額の20万は決定ではない増額も可能。

企画部門：チラシ、講師料、会議費含む。

2、1月役員会で検討した会則改正と役員体制について再度検討した。

①会則改正案の確認をした。

3、役員の新募集について

2月中に役員依頼を会員宛メールにて実施する(各分野から広く参加してもらう)

■ 3月度役員会 3月10日(木) Zoom会議の併用

報告検討事項

1、市民のチカラまつりについて三者協議の報告があった。

◎まつり部門と企画部門に分けた。

◎ACNWとして企画運営を担う。

◎子ども応援団事業を企画部門に入れる場合、事業費+6万円。

◎企画部門の参加者募集・申し込みについて、いつまでに何をするか意見交換した。

◎企画部門担当者を置く、会員からも募る。

企画部門説明会は別途行う。

◎今後まつりの実施方針を三者会議で決定する。

2、4月の会報発行について

会報61号について予定原稿及び進捗状況について説明された。

3、新年度からの運営体制と事業について検討した。

役員改選の現況報告があった。

新年度役員体制 代表・副代表・事務局・会計窓口、各担当の推薦があった。

運営体制について意見交換した。

4、総会の開催について

日程 5月下旬を予定

総会準備：案内・次第・事業報告・収支決算・監事監査・事業計画・役員人事の作成
(担当幹事 渥美節子)

~~~~★ 事務局 から ★~~~~

◆会報の「みんなの掲示板」に会員団体のイベントPRや会員募集、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局(メール a23se@cocoa.plala.or.jp)までご連絡ください。

◆アドレスご登録の会員には、この会報電子版や、イベントなどのご案内をメールでもお届けしています。アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。

◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーションにFaxにてご連絡するようお願いいたします。(Fax 04 7165 4370)

◆次号は7月15日発行予定です。

みんなの掲示板

◆◆あびこ市民活動ネットワーク定時総会のご案内◆◆

開催日 5月31日火曜日 けやきプラザ7階 研修室

開 場 午後1時30分

定時総会 午後2時～2時45分予定

令和3年度事業報告

令和3年度決算報告

令和3年度監査報告

令和4年度事業計画案

令和4年度収支予算案

会則改正案

令和4年度役員人事案

総会資料は5月中旬に発送予定です。
欠席の場合は委任状の提出をお願いします。

この3年間、コロナでお会いできなかったのも、
会員交流会で情報交換をしたいと思います。
皆様にお目にかかるのを楽しみにしています。
ご参加をお待ち申し上げております。

◆会員交流会 午後3時～4時予定

あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

2022年度は、子育て世代向けの事業に力を入れます。子ども・若者向け事業は、ゲームを社会との接点に活用するための講座準備を行う予定です。シニア向けには、「まち活ライター」養成講座を行い、ニュースレター等の発行物作成に関わっていただくを考えています。新たな活動を増やし、市民参画の事業展開を目指します。

■2022年度あびこ市民活動ステーション事業計画

事業分類	事業名・内容
① 場・機会提供	施設・備品の貸し出し、利用者懇談会、利用者アンケート
② 情報	団体情報の収集、『まち活マガジン』『まち活掲示板』の発行ホームページの構築・更新、メールマガジンの発行、facebook、キャリア教育人材バンク
③ 相談	日々の相談対応、出張相談、専門相談（障害者・外国人・80歳以上対象のPC困り事相談）
④ 交流・連携	市民のチカラまつりの企画・実施 我孫子・印西協働フォーラム（2023年度実施予定）の準備 若者向けゲームカフェ、シニアのためのZoomカフェ
⑤ 子ども・若者	Abiボラ：子ども・若者にボランティア情報やプログラムを提供 子ども・若者が主体になって企画する事業を支援
⑥ 子育て世代	あびじょカフェ（講座）：子育て期の男女の学び場、フリマ事業 出張子育て交流スペース cafe ネスト、『おかあさん新聞』の発行 あびじょプラスマイナス絵本（絵本の交換）
⑦ シニア世代	まち活ライター講座（連続講座）
⑧ 団体支援	助成金講座、「子ども応援団事業」（あびこ市民活動ネットワークとの協働事業）、提案のあった市民活動団体との協働事業
⑨ 多様な主体との連携	地域防災事業（まちづくり協議会等との共催） 外部事業への協力：あびこショッピングプラザとの共催等